

令和6年度 城西中学校 学校評価						
自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評 価	学校関係者の意見	
未来を拓く学び	「学ぶ」の楽しさを体得できる授業 - 教育DX推進によるタブレットやICT活用の推進 - 主体的・対話的で深い学びにつながる授業 - 発達段階に応じた生徒の個性やニーズに届くキャリア教育	- 生徒の意欲が高まるような課題や問題を設定し、わかりやすい授業の組立を工夫する。 「本時の目標・ねらい」「学習の流れ」「振り返り」を意識した授業を行う。 - 学習の過程において、自分の考えや思いを他者に表現する場面を取り入れ、対話的な学びを深める。 「毎日」の家庭学習の時間設定や取組が、効果的な主体的学びにつながることを知らせる。 1人1台のタブレット端末を活用し、Metamoji ClassroomやMicrosoftteams等を用いて、効果的な学習指導に努める。	- 授業のわかりやすさを肯定する生徒が85%以上である。 - 目標等の提示・ICTの活用等の授業改善を行っている教師が95%以上である。 - 自分の考えを文章で表したり、誰かに伝えたりすることができたと回答する生徒が85%以上である。	「先生はわかりやすく授業をしている」に対する肯定的な回答をした生徒の割合は86.9%で昨年と比較してほぼ横ばいの結果であった。昨年に引き続き、高い水準を維持していると考えられる。 「目標の提示・ICTの活用・グループ学習等の授業改善を行っている」に対する肯定的な回答をした教員の割合は91.5%であり、目標を達成することができなかった。 「自分の考えを文章で表現したり、誰かに伝えたりすることができた」と回答した生徒の割合は69.1%で昨年度より4.4%下がり、授業改善として対話的な学びの視点が十分ではなかったと考えられる。	- 教員の取組について、生徒の受けとめ方と保護者の受けとめ方で差がある。教員からの距離が離れるほど伝わりにくくなっているように思う。学校での取組を保護者に知ってもらう方法を考える必要があるのではないかと。 「先生はわかりやすく授業をしている」と回答した生徒の割合が86.9%というのは、先生方の取組の成果が現れていると思う。オープンスクールで授業を参観した際にも、生徒に考えさせる授業が多かった。 「自分の考えを文章で表現したり、誰かに伝えたりすることができた」と回答した生徒の割合が69.1%であったことについて、昨年度はタブレットを使って自分の考えを表現することができるようになったということだったが、今年度も引き続きそのような取組をしているか。今後継続してほしい。	わかりやすい授業については、生徒の肯定的な意見は高い(86.9%)が、教師の授業改善の取組(91.5%)に比べて低い結果となっている。教師の取組が生徒の受け止めと乖離しないよう引き続き、授業改善に努める必要がある。とくに、対話的な学びの視点を意識した授業改善に取り組む必要がある。また、毎日家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が前年度より2.3%低くなっている。家庭学習の充実により学力の向上を目指した取組を行うことが今後の課題である。
		働くことの意義や職業についての理解を深め、職業観・勤労観を育てるために、進路や職業についての学習や講演会などを通して、自分の将来を見つめることができる教育を進める。	働くことや職業に関心を持ち、自分の進路や将来について意欲的に考える生徒が80%以上である。	「自分の将来について考えている」生徒が、全体では76.6%であり目標には届かなかったが、学年が上がるにつれ数値は高くなり、3年では87.7%と自分の進路への関心の高まりが見られる。各学年でのキャリア発達(勤労観や職業観など)に合わせた教育の継続が大切である。	「自分の考えを文章で表現したり、誰かに伝えたりすることができた」と回答した生徒の割合が69.1%であったことについて、昨年度はタブレットを使って自分の考えを表現することができるようになったということだったが、今年度も引き続きそのような取組をしているか。今後継続してほしい。	「自分の将来について考えている」生徒が、目標数値である80%以上を目標に、子どもたちの発達段階や興味・関心に即した職業観・勤労観を育み、未来に夢を抱くことにつながる講演やワークショップ等の計画・実施を検討したい。1年生からの積み重ねの大切に計画的な指導が必要である。
生徒理解・生徒指導	- 校訓の精神に基づいた日常生活指導 - 自立するための人間力(あいさつ・時間等)の育成 - 生徒・保護者・関係機関との連携による個別最適な対応 - 個性・特性を伸ばす機会の創出	- 生徒の実態把握に努め、心の悩み、いじめの早期発見・早期解決に努める。教育活動全体において、学校や社会のルールを遵守する姿勢を育み、安心安全な学校づくりを目指す。 - 関係機関と連携し、生徒の未来につながる広い視野をもった生徒指導を実践する。結果、「力行」の精神を身につけ学ぶ、生きる力を備えた生徒の育成を目指す。	- 学校のルールを守って生活できていると答える生徒、校訓の教えを意識して積極的にあいさつをするようにしていると答える生徒がそれぞれ95%以上である。 - いじめや暴力がなく、みんなが楽しく過ごせる学校づくりに協力できていると答える生徒が90%である。 - いじめや暴力がない楽しい学校作りができていると答える保護者が80%以上である。	「学校のルールを守って生活している」と回答した生徒は95.8%となり目標を達成できた。一方、積極的なあいさつに関しては80.6%にとどまった。人間関係の基礎となり、学校生活を円滑にするあいさつの指導を充実させることに継続的に取り組みたい。 - また、生徒が88.5%、保護者が82.7%の割合で、いじめや暴力のない学校づくりに対して肯定的な評価になっている。否定的回答こそ弱者の声と捉え、改善点を見つけ、いじめを許さない学校を目指し、学校一丸となって取り組んでいきたい。	表現力について、近年はSNSでのコミュニケーションが主になっており、それでよいのだろうかと思う。SNSで使われる言葉はきついし、誤解もある。挨拶も減少してきているように思う。	「学校のルールを守って生活している」と回答した生徒が95.8%に上っており、目標値を達成している。今後も、油断することなく、生徒と共にいじめや暴力のない安心安全な学校づくりを推進し、さまざまな実践を続けたい。 あいさつに関する項目では、まだまだ課題が残る。来年度に向けて、生徒会を中心とした啓発活動を行い、教職員が手本となり、あいさつを実践するなど、学校全体で課題に取り組むたい。
		支援や配慮を必要とする生徒に対して、引き継ぎシートやチェックシート等を積極的に活用し、家庭と学校との連携を図る。学年、学校全体で共通理解を回り、生徒一人一人にとって必要な支援を、全ての教職員で考え実践していく。	- 先生が学校生活の中で困ったことやわからないことに適切なアドバイスをしてくれると答える生徒が80%以上である。 - 子どもが困ったことや悩みを先生に相談していると答える保護者が80%以上である。	「先生が適切なアドバイスをくれる」と答えた生徒は、86.9%で、目標を達成した。特に1年生では89.4%となっており、中学校入学後の個に応じた寄り添う指導が実っている。一方、「子どもが困った事や悩みを先生に相談している」と答えた保護者は、42.6%だった。保護者に見える取組が必要である。	挨拶の指導はきちんとしてもらいたい。就職しても挨拶ができない社会人が多い。相手に聞こえない声は挨拶ではないと思う。「社会を明るくする運動」で来校した際には、生徒会のメンバーを中心によく挨拶してくれた。	今後も、引き継ぎシートやチェックシート等を活用し、生徒理解を深め、個々の生徒の支援に取り組む。また、日頃から生徒に温かい声かけをするなど、生徒、保護者と良い人間関係を築き、それぞれの思いに寄り添いながら適切な支援をめざす。教師間の情報交換や研修等も大切にしたい。
豊かな心の育成	- いじめ・差別を見逃さず、共に解決するための取組 - 行事などを通じての個性を認め合う仲間作り - 情報モラル教育の推進 - 道徳科授業の改善と評価の工夫	生徒の実態をしっかりと把握し、一人ひとりがそれぞれの悩みや願いを出し合え大切にされる学級集団作りを通して、仲間意識を育てる。	- 困ったときに、先生が自分の悩みを聞いてくれたり相談に乗ってくれたりする、と答える生徒が85%以上である。 - 学校に行くのが楽しいと答える生徒が85%以上である。	相談事や悩みを話せる先生がいると答えた生徒は67.0%となった。学校に行くのが楽しいと感じている生徒は83.3%となった。保護者や子どもたちと悩みを共有し、寄り添える関係づくりに今後も努め、学校が居場所となるようにしたい。	地域の子の保護者と話をした際、先生方が本当によくしてくれと感謝していた。	生徒の支援について共通理解を図る教師間の情報交換や研修の機会を大切にしたい。日頃から一人一人の生徒を大切にし、個の良さを認め、自己肯定感を感じられる声かけを実践することで、信頼関係の向上に努める。
		さまざまな人権問題について正しい情報を正しく認識し、差別を鋭く見抜き、差別解消に向かって取り組んでいく意欲と実践力を育てていく。	道徳の授業や人権学習に前向きに取り組めたと答える生徒が85%以上である。	「道徳の授業や人権学習において自分の生活を振り返ったり、自分の考えや人の意見と向き合ったりして、前向きに取り組んだ」と回答している生徒が、全体で85.2%だった。学校全体で90%を目指して今後も取り組んでいく。		生徒にとって所属感の高い学級経営を目指すとともに、授業の中で互いの意見や考え方を認め合う態度の育成を図る。
安全・安心な学校づくり	- 非常時対応の徹底 - 感染症予防等を中心に据えて健康・安全への意識向上 - 交通安全指導への継続的な指導と環境づくり	防災・減災についての意識・知識を高め、災害時に適切な行動を選択できるよう、避難訓練を年3回以上実施するとともに、教科等の中でも自然災害についての学習指導を行う。	有事の際の避難場所や、避難の仕方について理解し、行動できる生徒が90%以上である。	避難場所や避難の仕方を理解している生徒が83.3%であった。2年生は昨年度より、2.4%増加し、3年生は2.7%減少した。学校全体で90%を達成することに向けて継続していく必要がある。	B	年に複数回実施している避難訓練を継続して実施していくとともに、訓練の際に生徒が自主的に避難する形をとるなど、訓練の実施方法を工夫する。
		- 登下校時の交通安全に対する意識を高め、交通マナーの向上に努める。 - 事故件数やマナー違反の事例を適宜周知し、積極的に生徒・教職員の安全意識の向上を目指す。	- 自転車通学生のヘルメット着用率が100%である。 - 学校敷地内では自転車を降りて押している。 - 安全意識を向上させることで、交通事故件数の減少に努める。 - 交通ルールを守って登下校できていると答える生徒が95%以上である。	「交通ルールを守って登下校している」と答えた生徒が95.6%であった。しかし、ヘルメット着用率100%は達成できていない。また、並進などにより車や歩行者への迷惑運転も見られた。交通事故の発生件数も目立った減少には至っていない。命を守るため交通ルールの遵守を啓発し続けていく。		
健康教育	- 健康的で好ましい生活習慣の定着 - 養護・体育・給食・部活動等からの積極的な情報発信 - 学校医・学校歯科医・学校薬剤師・SC等専門スタッフからの知見の活用	- 体力テストの結果、健康診断結果、生活習慣アンケート等を活用し、生徒が好ましい生活習慣を身につけられるよう指導する。 - 教職員間に加え学校医、SC等とも連携し、生徒自身が心身の健康保持や生活習慣改善に向けて、積極的に取り組む態度を育てる。	よい生活習慣を身につけようと努力している生徒が85%以上である。	「良い生活習慣を身につけようと努力している」生徒は82.7%であり、目標に届かなかった。生活習慣アンケートの結果は、1学期よりも2学期の結果が悪くなる傾向にあり、繰り返し生活習慣に関する指導を行っていく必要がある。	B	養護・体育・給食・部活動等が連携し、様々な機会でも繰り返し生活習慣に関する啓発を行っていく。また、HPや保健だより等を通じて家庭の協力も得られるようにする。さらに、学校保健委員会等の機会を活用し、保護者の意見も反映させながら健康教育をすすめていく。
		「お弁当の日」や給食の時間、各教科の食に関する内容を通して、心身の健康を保持増進しようとする態度の育成と食物を大事にし感謝する心を育む。	食物を大事にし、感謝の気持ちをもつ生徒が90%以上である。	「食べ物や大事にし、感謝の気持ちをもっている」生徒が91.7%で、目標を達成した。また、「家庭で食生活に気をつけている」保護者は89.1%おり、食への関心の高さが伺える。今後も学校と家庭で連携し、食の大切さについて啓発をしていきたい。		
開かれた学校づくり	- 学校ホームページ等を活用した学校情報の提供と教育活動の発信 - 地域や社会の活動への参画	- 学校の活動風景や活動予定等を配布物やホームページを通してわかりやすく伝える。 - コミセン等との連携に努め地域行事に積極的に参加する。	- 学校の活動風景や活動予定等を配布物やホームページを通してわかりやすく伝える。 - 地域との連携に努め地域行事に積極的に参加する。	「学校の様子がわかる」と72.6%の保護者からの回答を得た。本年度も、地域ボランティアに、約290名の生徒が参加しており、多くの生徒が積極的に参加できた。今後も学校の様子をわかりやすく伝えることや地域と連携した活動に参加することを心掛けたい。	B	情報モラルに留意しながら、効果的な情報発信の場として、ホームページを有効に活用していく。学校行事などを通し、城西中学校の教育活動の様子を公開し、地域と共に歩む、開かれた学校づくりに今後も取り組んでいく。